学校便り 9月号

令和7年8月 25 日発行

和歌山市立 岡崎小学校

学 校 長

2学期もよろしくお願いいたします

8月は外に出ると息苦しいほどの猛暑の日が続きましたが、子どもたちは、どんな夏休みを過ごしたのでしょうか。久しぶりに会う子どもたちは、日焼けして少したくましくなったように思いました。また、登校する手に、夏休みの宿題や作品が、しっかりと握られていて、充実した夏休みだったことが感じられました。子どもたちの力作を、夏休み作品展で紹介します。お時間がありましたら、子どもたちの作品をご覧ください。(夏休み作品展は8月26日27日28日に行います。)

私たち教職員の夏休みはというと、2学期に向けての教材研究や、2学期から導入されるLINE スクール連絡帳の準備や研修。また、子ども理解や教科等の校内研修や校外研修と盛りだくさんでした。LINEスクール連絡帳については、研修を何度も重ね準備しましたが、不慣れなためご迷惑をおかけすることもあると思います。ご遠慮なくお問い合わせいただければと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

さて、8月下旬、兵庫県での研修に参加しました。元阪神タイガース監督 矢野燿大 氏の講演を聞かせていただきました。「子どもたちに生きる喜びと夢を育むためには」ということで①～③の順にお話が進みました。

① 「子どもは可能性の塊である。少しの失敗や、結果を言うのではなく、自分はどう取り組んだのか。次の課題は何か等を考えさせ、できるまで見守ってやることが大切である。」

② 「人生は挫折の連続である。前向きに考えることで、一歩前へ進むことができる。」矢野氏も挫折の連続だったそうです。高校時代の野球人生、大学進学。大型トレードで阪神タイガースへの移籍。挫折を味わいくじけそうになるたび、自分の可能性を信じ、あきらめるのではなく、こういう姿になるためにどうすればいいのか考え続けたそうです。ピンチはチャンスと言いつつも頑張り、監督になってからも、選手と一丸となり「ピンチはチャンス。」を合言葉に、何事も前向きにとらえたからこそ、一歩を踏み出しせたとおっしゃっていました。

③ 「自分のためだけではなく、誰かのためにという気持ちは人を強くさせる。」矢野氏は自分の娘さんに自分が野球選手であることを見せたいという思いが強く、頑張れたそうです。

そして、その3つのことの根底には、感謝の気持ちを持ってほしいと最後に語っていらっしゃいました。

子どもたちにも矢野氏のように、生きる喜びと夢をもってほしいと思い、始業式で矢野氏の話をしました。

子どもたちに生きる喜びと
夢を育むために

- ① 可能性を信じ切る
- ② ピンチはチャンス
- ③ 誰かのために

+ 感謝

元阪神タイガース監督
矢野 燿大 氏の講演より

サマーフェスティバルへのご協力ありがとうございました

7月19日のサマーフェスティバルへのご協力ありがとうございました。今年度は各教室を使いそれぞれの出し物を行いました。教室をきれいに使っていただきありがとうございました。また、手作りのプライドポテトやフランクフルト販売が今年度より追加されましたが、暑い中での作業ありがとうございました。育友会の皆様に、朝早くからご協力いただいたおかげで、無事終了することができました。本当にありがとうございました。